

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401459
法人名	特定非営利活動法人 しまばら
事業所名	グループホーム たけふえ
所在地	長崎県島原市有明町湯江丁2591-2 (電話) 0957-61-9721
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年 1月 16日

【情報提供票より】 (平成20年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	利用定員数計 27 人 常勤17人, 非常勤 人, 常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人有隣会 貴田神経内科呼吸器科内科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から7年目を迎えた当事業所は、理念のとおり地域の中に根ざし一緒に暮らすことを実践している。消防の避難訓練や夏祭りなど様々な事業所の行事への近隣住民の参加があることがそれを表している。掃除が行き届いており、洗濯物を分けて洗濯する配慮や毎月の防災訓練実施など利用者、家族が安心できる環境を作っている。また、運営者は職員の資格取得に相談に乗るなど積極的に職員を育てる姿勢があり、離職者が出ないように取り組んでいる。職員の利用者本位の支援を行う基本姿勢は、日常会話での丁寧な言葉使いや視線を利用者と合わせて話す態度などに表れており、利用者との良好な関係は昼食時に話しかける職員に対する利用者の笑顔で確認できた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果については、職員会議や運営推進会議、家族にも報告されている。改善に向けての取組みは、自己評価を全員で取り組み、入浴介助について見直され実践されていることが確認できた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者と職員が話し合いながら全員で行い、管理者が作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に一度行われ、メンバーは、自治会長、包括センター職員、法人代表、管理者が参加している。避難訓練報告、外部評価報告、行事報告が行われ、地域や事業所における行事等の協力体制について話し合わせ、アドバイスを運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口については、重要事項説明書に内部及び外部相談窓口、第三者委員を記載しており、苦情解決の流れについても入所時に説明している。また、家族に向けて年に一度要望等を聴取するためのアンケートを実施している。以前「身体を動かす工夫をしてほしい」と家族からの要望が有ったため、ラジオ体操などを取り入れるなど、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所が年に一度開催している夏祭りは、近隣から多くの参加が有り、地域の中でも年間行事となっている。自治会に入っており、地域の福祉祭りに出品する等交流が有り地域に根づいている。また、今年度の目標を「エコ・クリーン100%」とし、毎月職員と利用者が一緒に事業所の周りの清掃や、ごみを減らし、活用できるものは無駄なく使う事を実践している

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、1、ともに「喜び」支えあい「誇り」を大切に「心」と「身体」の力を発揮しながら暮らせる家庭的な場を提供すること。2、地域に根ざし、助け合いの精神のもとに、全ての人々が健やかに暮らせる地域社会づくりと、福祉の増進に寄与することである。地域の方が事業所を行き来できることをめざし、法人の理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝の申し送りや理念を復唱し、ミーティングで理念の取り組みについて振り返り、全員で理念を共有している。職員は理念について理解しており、地域と交流を持ちながら理念の実践に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が年に一度開催している夏祭りは、近隣から多くの参加があり、地域の中でも年間行事となっている。自治会に入っており、地域の福祉祭りに出品する等交流があり地域に根づいている。また、今年度の目標を「エコ・クリーン100%」とし、毎月職員と利用者が一緒に事業所の周りの清掃や、ごみを減らし、活用できるものは無駄なく使う事を実践している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、管理者と職員が話し合いながら全員で行い、管理者が作成している。職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を正しく理解している。外部評価結果については、職員会議や運営推進会議、家族にも報告されている。改善に向けての取り組みは、自己評価を全員で取り組み、入浴介助について見直され実践されていることが確認できた。		

グループホームたけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一度行われ、メンバーは、自治会長、包括センター職員、法人代表、管理者が参加している。避難訓練報告、外部評価報告、行事報告が行われ、地域や事業所における行事等の協力体制について話し合わせ、アドバイスを運営に反映している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は島原市へ業務内容について問い合わせを行っている。また、市の介護福祉課に職員が家族と同行し、制度について相談、指導を受けている。また、広域圏介護保険課へ介護保険について相談するなど市町村との連携を密に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、必ず利用者の近況報告を行っている。遠方の家族へは、メールで写真を添付し、利用者の日々の様子や行事報告を行っている。月一回の請求書発行時に、家族へ広報誌「たけとんぼ」と利用者の健康状態報告、金銭出納帳に領収証を添えて郵送している。預かり金は、金銭出納帳で管理し、家族の確認を得ている。職員の法人内の異動があった場合は家族への報告は面会時に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口については、重要事項説明書に内部及び外部相談窓口、第三者委員を記載しており、苦情解決の流れについても入所時に説明している。また、家族に向けて年に一度要望等を聴取するためのアンケートを実施している。以前「身体を動かす工夫をしてほしい」と家族からの要望があったため、ラジオ体操などを取り入れるなど、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の移動先は隣接しており、お互いの行き来があり利用者との馴染みの支援は継続している。担当制は取っておらず、利用者のダメージを少なくする様に、職員全体で利用者積極的に話をするように支援している。		

グループホームたけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は年に3回職員面談を行い、希望する研修を受講出来るように考慮している。新人研修については、担当者がマンツーマンで指導している。内部研修は年間計画をたて、病院に依頼してリハビリ、口腔ケア、感染症等についての研修を行っている。外部研修の資料については、全体で閲覧出来る様ファイリングしているが、職員の閲覧サインが少ない。	○	研修に参加できなかった職員が、資料を閲覧し情報を共有して同じレベルのサービスの質による支援に役立てるために、研修の資料を閲覧し、閲覧サインを徹底することを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム運営推進協議会は今年度脱退したが、他のグループホームとはスポーツや夏祭り、音楽祭を通じて相互交流を行っている。施設長間の交流や職員も職員同士のスポーツなどに参加して交流を深めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者が居宅や入院中の場合は職員が面会に出向き、本人や家族が見学が可能な場合は来所し、管理者は事業所の説明をしている。利用開始時は職員が元の住まいが近い利用者を近くに座らせたり、声をかけたり、利用者の中に入りたりして馴染めるように支援している。また、家族には頻繁に報告し、昔のことを聞き取り支援に活用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入浴介助後から夕食までの利用者と共にゆっくりできる時間を大切にしている。職員がのんびりしている時は利用者との会話がはずんでいる。利用者から感謝の言葉が聞けるようになり職員と利用者が支えあう関係をつくりつつある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の表出が困難な場合も本人の表情と、歩行状態を含む体の動きなどを詳細に観察しながら、利用者のリズムを崩さないように気を付けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時から約2週間の日々の様子や職員の記録、本人、家族の要望を基に介護計画を作成する。また、毎週日曜日に1時間程度スタッフミーティングを行いケアプランのための話し合いを行っている。病院からの意見は注意事項として反映し、ケアプラン原案を作成して、家族に伝え、希望が出た場合は盛り込んだケアプランを再度作成する。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1度全員で介護ミーティングにて見直しを行っている。見直しは前回の介護計画の評価を赤字で記述し、評価が一目でわかる工夫があり、評価を反映させた介護計画を作成している。急変時、退院後はプランを立て直している。家族には、状態を説明し、希望や意見を聞きプランに反映して、承諾のサインをもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月命日の前の日曜には墓参りに出かけ、紅葉・ツツジ見学は手作りのお弁当を作って持って出掛けるなど、事業所ができる多機能性を活かして、利用者の生活を支援している。		

グループホームたけふえ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が内科・外科・精神科・整形外科・眼科・皮膚科など利用開始前からのかかりつけ医に受診している。また、医療連携を利用して看護師が毎週訪問し、健康管理をしている。職員にも正看護師、准看護師がおり、利用者の体調変化などに対応し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針については、本人、家族に契約時に説明し同意書を作成、保管している。日中は看護師が職員としているため急変に対応できるが、夜間は担当職員の的確な対応が必要となるため、年に一度介護職員を対象に医療の基礎知識講習会を受講している。また、緊急時のマニュアルや連絡網を作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	帰宅願望のある利用者については、警察、消防、近隣に顔写真を配ることを承諾する旨の同意書を契約時に家族からもらい保管している。また、職員採用時は保証人2名とともに守秘義務の誓約書を取り保管している。記録類は所定の場所に保管している。利用者は人生の先輩であるという支援の基本姿勢を守り、言葉使いは丁寧に同じ目線まで降りて話すように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりにその日の希望を聞くことから一日が始まる。日々の会話から元々の暮らしのリズムを聞き、起床、就寝時間、食事の量などに活かしている。また、食事は部屋食希望にも対応するなど、一人ひとりの体調に合わせる支援を行っている。		

グループホームたけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の栄養士、調理担当、配食業者で2ヶ月に一度、献立を検討している。食事介助の必要な利用者を支援する職員以外は、同じ献立を利用者の間に入り一緒に会話しながら食べている。食器の片付けやテーブル拭きなどができる利用者は他の人の分も片付けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は利用者が入浴する温度を手で適温であることを確認してから浴室へ誘導している。毎日4箇所の浴室を使って利用者の入浴したいタイミングをみて誘っている。夕食後の入浴にも対応している。冬場は入浴剤を使って、楽しめる工夫をしている。昨年の改善項目である補助具設置の検討は、職員が2名付くことで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農家だった利用者には野菜の種付けの時期を聞いたり、料理が得意な利用者には食事の味付け、皮むきを手伝ってもらっている。また、習字が得意の利用者は書初めをし、ぬり絵に興味がある利用者はぬり絵を続けることで上達し、それと共に気持ちも安定してきた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩は毎日利用者全員に声をかけ、利用者3人に職員1人が対応するようにして一緒に出かけている。車椅子利用の場合は、福祉車両で出かけている。天気の良い日は中庭でお茶の時間を設けるなど、利用者の楽しみになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の利用者には、落ち着くまで職員と一緒に歩いている。玄関は日中は施錠せず、職員が会議などで手薄になる時だけチャイムを作動させている。居室の吐き出し窓は、帰宅願望の方だけ家族に承諾をもらい、換気できる程度にしか開かないようにしている。		

グループホームたけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施しており、そのうちの一回は消防署立会いの元、近隣の方、利用者も一緒に行っている。夜間想定訓練も実施し、緊急連絡網を作成し掲示している。また、事業所独自の防災訓練年間計画を作成し、毎月種別を変えた訓練をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者は食欲旺盛であるが、食事を残すなど気になる利用者については摂取量をチェック表に記録して支援している。栄養バランスは法人内の栄養士が考えており、水分は食事、おやつ、部屋へお茶を配るなど十分に採れるよう支援している。また、利用者一人ひとりの好き嫌いやアレルギーなどに対応し、また刻みやペースト食も本人の感想を聞きながら検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は掃除が行き届いており清潔で、気になる臭気もない。季節感のある花や飾りで、居心地のいい空間を演出している。居間は畳やテーブル、椅子、ソファとあり、利用者は好きな場所に腰を下ろし、それぞれにくつろぎ、日中はほとんど居間で過ごしている。ただし、広がりリビングではあるが数台あるテレビそれぞれの音量が大きく、会話が聞き取れない場面があった。	○	難聴の利用者への対応で、テレビの音量が大きいのは、難聴でない利用者、訪問者への配慮も必要である。対策の検討に期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、仏壇や鏡台、たんすやテレビなど親しんだ家具が置かれており、また家族の写真が貼ってあるなど利用者の居心地よい暮らしができる配慮がある。		

※  は、重点項目。